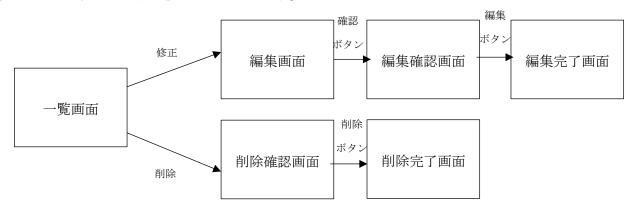
- ○一覧画面から編集画面、削除画面へ遷移する方法について
- 一覧画面から編集画面や削除画面へ遷移するときは、一覧画面で一覧を表示するときにちょっとした工夫が必要です。

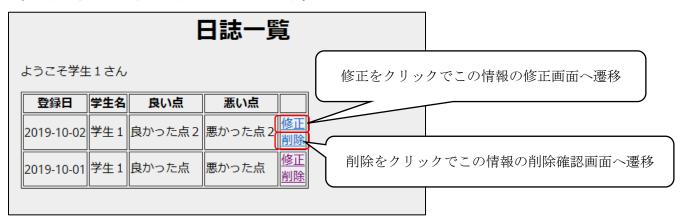
## (1)画面遷移

画面遷移については以下の画面遷移を想定しています。



## (2)一覧画面について

一覧画面は以下のような画面を想定しています。



#### 一覧画面の JSP は以下の通りです

```
List(DiaryBeans) diaryList = (List(DiaryBeans))request.getAttribute("dairyList");」
(h)日誌一覧(/h)」
(p)ようこぞ学生1さん(/p)」
(th)学年名(th)』
(th)学年名(th)』
(th)是し点(/th)』
(th)是し点(/th)』
(th)を助わけ(th)』
(th)をいるが(th)』
(th)をいるが(th)』
(th)をいるが(th)』
(th)をいるが(th)』
(th)をいるが(th)』
(th)としているが(th)』
(th)としているが(th)。
(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)。
(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)。
(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)には、(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th)としているが(th
```

Ka href="update\_confirm?class\_code=<%=diaryBeans.getClassCode() %>&insert\_date=<%=diaryBeans.getInsertDate()%>">修正</a Ka href="delete\_confirm?class\_code=<%=diaryBeans.getClassCode() %>&insert\_date=<%=diaryBeans.getInsertDate()%>">胃비除</a>

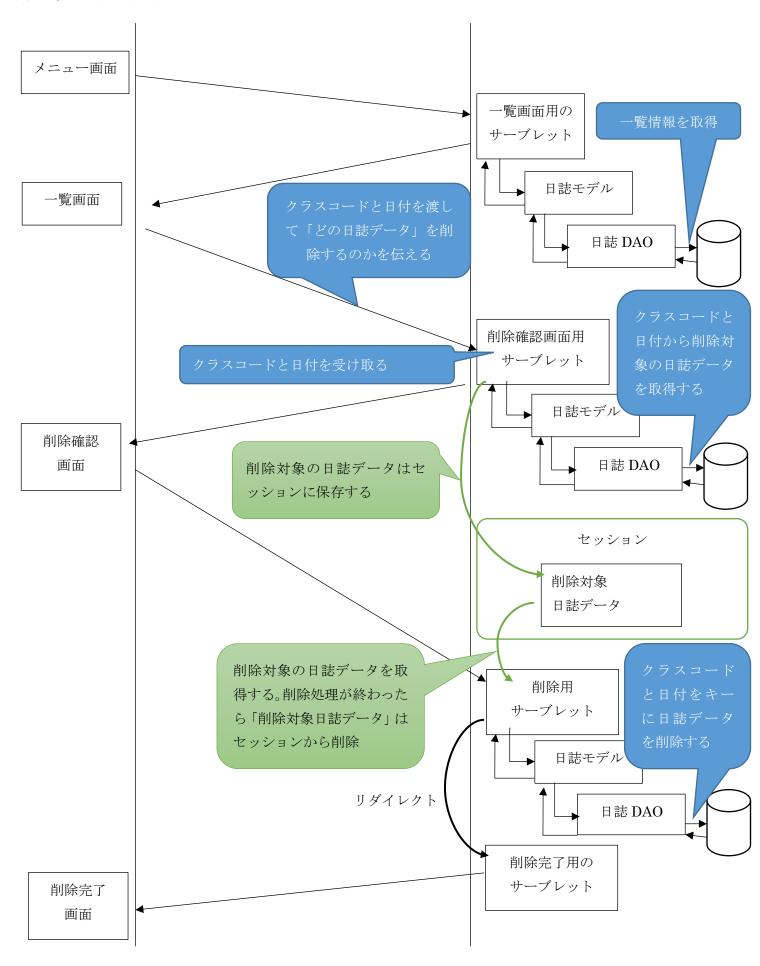
update\_cofirm、delete\_confirm は次の画面の URL。「?」以降はパラメータを渡している。パラメータは「&」で区切って複数渡している。つまりこの a タグの参照先は以下のようになります。

参照先	パラメータ名	パラメータの値
update_cofirm	class_code	diaryBeans.getClassCode()
		メソッドで取得される値
	insert_date	diaryBeans.getInsertDate()
		メソッドで取得される値
delete_confirm	class_code	diaryBeans.getClassCode()
		メソッドで取得される値
	insert_date	diaryBeans.getInsertDate()
		メソッドで取得される値

# 【class\_code と insert\_date をパラメータに持たせている理由】

日誌テーブルを一位に特定するキーがクラスコード (class\_code) と日付 (insert\_date) だからです。 次のページをみてください

# 例) 一覧→削除画面の例



前ページの図で「削除確認画面用サーブレット」は以下のような実装になります。

```
@WebServlet("/delete_confirm")↓↓
public class ConfirmDiaryDeleteServlet extends HttpServlet { -
                                                      一覧画面の「?」以降で送られたパラメー
   00verride√
                                                      タは getParameter で取得できます
   protected void doGet(HttpServletRequest request, HttpServletRespo
                          throws ServietException, IOExcepti
                                                     JSP から送られた class_code、
                                                      insert_date を取得しています
     確認画面に表示する情報をモデル→DAO
      経由で DB から改めて「削除対象日誌デー
     DiaryModel diaryModel = new DiaryModel();↓
                                                        タ」取得しています
     DiaryBeans diaryBeans = diaryModel.getBy(insertDate, classCode);
      次の削除処理を行うサーブレットで使用する
     HttpSession session = request.getSession();↓
     session.setAttribute("deleteDiaryBeans", diaryBeans);
                                                    ので「削除対象日誌データ」をセッションに
                                                    保存しています
     RequestDispatcher dispatcher 🚭
           request.getRequestDispatcher("WEB-INF/jsp/diaryDeleteConfirm.jsp");
      dispatcher<u>.forward(request, response);</u>⊿
   }...
}...
                                                   確認画面へ遷移します
```

削除サーブレットの実装は以下のようになります。

```
@WebServlet("/delete_diary") = public class DeleteDiaryServlet extends HttpServlet {==
                                                         セッションから「削除対象日誌データ」を
Э
   protected void doPost(HttpServletRequest request, HttpServletResponse
      取得する
      HttpSession session = request.getSession();
      DiaryBeans diaryBeans = (DiaryBeans)session.getAttribute("deleteDiaryBeans");
      Model、Dao 経由で削除処理を実行する
      DiaryModel diaryModel = new DiaryModel();↓
                                               diaryBeans に入っている「クラスコード」と「目付」
       diaryModel.delete(diaryBeans); 4
                                               をキーにして Delete 文を発行し削除処理を実行する
       session.removeAttribute("deleteDiaryBeans");
                                                 削除処理実行後、セッションからデータ削除
       response.sendRedirect("delete complete");
                                                完了画面ヘリダイレクトする
   }...
},,1
```